

千年の古木

羽出西谷の県道下和奥津川西線に西に進み、大榎橋の手前で北に若曾川沿いに北へ約一〇〇m進むと、左側の道端にトチの木の大榎がありま

す。これが、町指定天然記念物である「大榎の木」です。

推定樹齢は一、〇〇〇年と言われています。一、〇〇〇年前といえ



昭和30年代前半頃の大榎の木

きくそびえ、地域のシンボルであったことがうかがえますので、やはり相当古い巨樹であることは間違いありません。

ちなみに、近隣の古木でいえば、真庭市の醍醐桜が推定樹齢一、〇〇〇年、奈義町の菩提寺の大イチョウが九〇〇年以上と言われていますので、県下でも有名な巨樹と肩を並べるくらいの古さになります。目通り周囲七mを測り、地上三mあたりのところ



栃木神社



平成22年

のびていたものが、一度折れてしま

い、そこから再び数本の幹に枝分かれしていったのかもしれない。目通り周囲七mといえ、平成三年（一九九一）に環境庁がまとめた「巨樹・巨木林調査報告書」において、県内

で一六番目の規模となっています。この調査では旧津山市内や旧富村の巨木は含まれていませんが、中山神社のケヤキ（八・五m）や布施神社

のケヤキ（七・一m）を含めても県下二〇番以内には入るものでしょう。昭和十六年（一九四一）には、県

の天然記念物に指定されていたようですが、後に指定解除

になり、昭和六〇年（一九八五）に奥津町指定文化財になっています。

幹は空洞となっており、その中に「栃木神社 明治二十二年五月吉日」と自然石に刻

んだ石造物が置かれています。このことから、明治時代には

すでに古木として神聖視され、信仰の対象にもなっていたの

でしょう。また、この木からとれたトチの実是不老長寿の効果があり、栃餅にして食べていたとも言われています。

羽出には、江戸時代に「木地師」とよばれる木で盆や椀

などの木製品の製作を生業とする専

業集団が住んでいました。木地師にとっては、トチの木はこうした木製品を作るにあたっては格好の材料なのですが、それにも関わらず大榎の木が伐採されず残っているということは、江戸時代にはすでに地域のシンボルであった可能性もあるでしょう。

高さは近年までは二十五mくらいあったようですが、平成三年の台風十九号により分岐箇所から片方の幹が折損してしまいました。そして、ここ数年は樹勢も衰えをみせ、枝が枯れて折損したり、葉がつかなくなり、幹も地上数mを残すのみとなりました。あまりの高齢のため、樹勢回復治療も効果をなさないのであろうとの診断も得ており、千年の古木もいよいよ終焉の時が近くなっています。

ただ、その傍らには、平成十九年に岡山林業試験場によって実施された「おかやま名木バンク」事業で増殖した、大榎の木と同じ遺伝子をもつ後継樹が植えられ、名木の遺伝子は脈々と次の世代へと受け継がれています。

参考資料：『奥津町の文化財「津山の名木百選」』、『岡山の巨樹老樹名木』、『巨樹・巨木林調査報告書』、『羽出村開村記念誌』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733